

志小安全・防災だより



R元.11.11 NO.27
安全・防災担当：早坂 潤

“ダーウィンが来た！”で志津川湾のダンゴウオが放送されました

11月3日のNHK“ダーウィンが来た！かわいいダンゴウオ多彩な色に驚きの秘密”で志津川湾に生息するダンゴウオが放送されました。初めに映っていた海中カメラマンの佐藤長明さんは、今月の南三陸町PTA 連合会地区教育セミナーでの講演会の講師です。先日お会いする機会があり、お話を伺いましたが、志津川湾のすばらしさについていろいろと語っておられました。お話をいただいた中で興味をもったことは、震災後の海中の変化や河川工事が志津川湾に及ぼしている影響などです。詳しくは講演会の日ということでしたので、どのような話が聞けるか楽しみです。ダンゴウオについては、南三陸町ビジターセンターに写真が展示されていたので、形くらいは知っていましたが、志津川湾のダンゴウオが赤っぽい色をしているのは、海藻の色が赤色のものが多いことが理由であることや、オスがフジツボの殻や穿孔貝の開けた穴に産卵巣を作りそこにメスが訪れて産卵することなどは初めて知りました。テレビの画面の右上には「舞台は震災から8年の南三陸」の文字が掲げられており、町の復興と同じように志津川湾の環境もよい方に守られてきていることを感じました。



八幡川にまちの象徴となる「中橋」の橋桁が架かりました

三陸新報にも掲載されていましたが、さんさん商店街側と防災庁舎側の祈念公園を結ぶ「中橋」の中央部分の橋桁が架けられました。この橋は、車両は通行できない歩道橋で、全長80.6メートルのアーチ状であることが言われていました。橋の床板には南三陸杉を使用するそうです。震災前も名称は「中橋」のままで、新しい「中橋」は震災前の橋よりも100メートル上流に設置されるそうです。



1年生、ルールを守ってみんなで楽しく鉄棒遊びをしています

松の木前の鉄棒にぶら下がっているのは1年生の子どもたちです。天気がよい日が続いている中で、鉄棒遊びにも興味をもって取り組んでいます。初めは、ただぶら下がって遊んでいるのかと思ったら、一斉に足かけをやって見せてくれました。そのような中で先生から言われた危険につながる行動はお互い声を掛け合いながらやらないように注意していた姿が印象的でした。体力づくりにどんどん励んでほしいです。



今年も八幡川にはたくさんのサケが上ってきています

八幡川に取り付けられている、サケを捕るための鉄格子の中では勢いよく水しぶきを上げてもがいている大きなサケの姿が見られました。川に掛けられた網の手前には疲れ果てて弱ったのか腹部を上にしながらかしそうに泳ぎ回っているサケや死骸となり水に沈んでいるサケの姿も見られます。今年は昨年と比べると数は少ないようですが、今年も震災後に放流されたサケがまた戻ってきました。日ごとに数は減ってきていますが、できるだけ長く生きてほしいと思いました。